

## スタートは椅子から

「孫におもちゃを作ったあげたい、それがきっかけでした」。

前野さんが木工を始めたのは平成8年、勤め先を定年退職してからでした。木材を扱う仕事に再就職したことから、木の特質や利点を学び、お孫さん用の椅子を見よう見まねで作りました。

それからの前野さんは、木工に打ち込んでいきます。

「遠軽町や置戸町などの木のおもちゃの施設をまわり、展示物から技法などを学びました。実際に触れることで刺激を受けながら、これまでさまざまな木のおもちゃづくりに挑戦してきました」と、前野さんは当時を振り返ります。

前野さんの作品は、リードを引くこ車輪の足でかわいらしく散歩をする子犬や、愛らしい表情を浮かべたお雛様など、子どもたちの興味を引くものばかり。だからこそ、前野さんには作品づくりにあたってのこだわりがあります。

「鉄釘は使わず、木組みや接着剤で材料を組み合わせて作っており、危なくないように角も落としています」と教えてくれました。

実際に作品を手にとると、丸みを帯びるよつにと、ヤスリや二ス



▲これまで作り上げてきた作品の一部

が丁寧に施された優しさに満ちた作品であることが伝わります。

## 受け継がれる木工作品への思い

昨年9月、幌別中学校のあんどん行列を観た前野さんは、その見事さに心を動かされました。

「中学校と連絡を取り、行列後に壊される予定だったあんどんを町内会へ寄贈してもらいました。そのお礼として、私の作品を学校へお渡しし、自由に使用や展示をしてもらっています」。

木工作品への思いは、世代を超えて受け継がれていきます。

「幼い頃から私のおもちゃに触れていた孫が、木工作品を作りました。ユニークな作品で、発想の斬新さに驚かされました」と、うれしそうに語る前野さん。新たな刺激を受け、さらなるイマジネーションを膨らませています。



KIRARI

まえのとしいち

前野利一さん(常盤町)

机や椅子などの実用品、おもちゃの自動車や魚釣りゲームなど、これまでさまざまな木工作品を作り上げてきた前野利一さん。

その作品たちは、前野さんが施した丁寧な仕上がり具合と、木という材質が持つぬくもりとが相まって、思わず手に取りたくなるものばかりです。

長きにわたり、優しく、どこかユーモラスな作品を作り上げてきた前野さんに、木工作品を作り始めたきっかけや思いを伺いました。

## ぬくもりに満ちた木のおもちゃが、子どもたちを笑顔に



昭和12年10月3日、門別町(現:日高町)生まれ。77歳。室蘭市内の製鉄会社に勤めた後、木のおもちゃづくりを始め、これまでに数々の作品を制作。登別市社会福祉協議会の『ふれあい・いきいきサロン』では、木工教室の講師も務めた。